

令和6年度 第二回 子ども・子育て会議 議事要旨

【開催日時】	令和6年10月31日（木）午前10時00分～11時30分
【場所】	総合福祉センター 3階 会議室1
【出席者】	加藤会長、横山副会長、奥委員、楠瀬委員、赤土委員、出川委員、畑山委員 (計7名)
【事務局】	福祉部長、健康部長、福祉部次長兼生活支援課長事務取扱、健康部次長兼保健センター所長事務取扱、こども課長、保育課長、児童福祉課長、保育課員、保健センター員、児童福祉課員
【傍聴人】	2名
【議題】	1. こども計画の策定について 2. こども計画の策定に係るアンケート内容について 3. 第3期香芝市子ども・子育て支援事業計画における第5章の内容について 4. 令和6年度中における会議の追加日程について 5. その他

- ◆ 「こども計画」の策定及び策定に係るアンケート内容について
「こども計画」に包含される「第3期香芝市子ども・子育て支援事業計画」における第5章の内容について
＜概要＞
こども計画の策定にあたり、計画の基本理念、策定に係るアンケート内容及び包含される子ども子育て支援事業計画の内容について確認、検討及び協議を行うもの。

◆ ＜質疑・意見等＞

【質疑・意見1】

○委員

子ども、若者という視点を持ち、未来を考えていくような計画を早々に策定するのは、とても有意義だと思う。

担当課の皆様には、とてもご苦労がお有りかと思うが、私も一委員として計画が良いものになるように努めてまいりたい。

【質疑・意見2】

○委員

「こども計画」の実施についてはいつからか。

○児童福祉課長

「こども計画」は、市議会にて議決されたのち、令和7年4月1日施行予定。

【質疑・意見3】

○委員

アンケートは、昨年、就学前・就学後の子の保護者が対象だった。では、子どもにはアンケートは実施されるのか。

○児童福祉課長

今回は、小学生にはアンケートを実施せず、中学校2・3年生の総合計画でとったアンケート結果をもとに、策定を進める。

策定後、事業内容見直しという形で、改めて子どもの意見を聞ければと思う。

○会長

資料2にある通り、子ども子育て支援事業計画は、乳幼児から小中学生を対象としており、高校生や若者についての情報が不足しているため、今回のアンケートで追加するという旨、了解した。

【質疑・意見4】

○委員

アンケート内容についてとても興味深い。このアンケートを収集した先で、具体的に何を策定するの
かもう一度教えてほしい。

さらに、このアンケートを通して見えてきた課題に対して、何をやるのかという目的はもうすでにあるのか伺いたい。

○児童福祉課長

このアンケートは、「こども計画」の策定のために実施する。

「こども計画」の中には、青年期の自己評価、価値観や生き方の確立の支援など、子ども子育て支援事業計画に含まれていない部分がある。さらに他課の施策が様々あるので、これらも盛りこみながら、香芝市民へ切れ目なく支援を行っていけるよう、このアンケートの結果をもとに事業を進めていきたい。

【質疑・意見5】

○委員

このアンケートには、自由記載欄を設けるか。

○事務局

自由記述については、集計した際、今ある選択肢で選んでいただいた方が活用しやすいデータになるのか、自由記述で書いていただいたものを取りまとめた方がデータとして活用しやすいのかというところを検討中である。

○委員

ウェブアンケートを実施されるのはすごくいいと思う。

アンケート項目にないが、言いたいことがあるときに自由記載欄がある方が多くの意見が集まると思うのでぜひ前向きに検討いただきたい。

【質疑・意見6】

○委員

この香芝市のアンケート案というのは、国がサンプルを示し、それを参考に作成しているものなのか。このアンケート内容を見ると、割とシンプルに感じる。これで一つの目指すものがうまく見えてくるといいなと思うが、アンケート項目がシンプルであると、結果からどんな方向にも考えることができてしまう恐れもあると思う。もうすでに「こども計画」に際して、子ども・若者に向けたアンケートを実施されている市においては、そんなに答えられるのかというぐらいの量で、すごく踏み込んで聞いているような設問もあり、最後まで回答してくれるのか心配になるようなところもあった。そんな他市の例を参考にして、もう少し設問を増やしてもいいのではないかなと思う。

また抽出という事だが、HPにも掲載するなどあれば、もっと多くの人に答えてもらえるかなと思う。

○事務局

国から特にアンケート項目というのが示されてるわけではない。私どもも他市のものを参考にしながら設問を設定しており、なるべくシンプルにするため設問数を削っている。

ウェブアンケートの特性上、おそらく若者は、スマホで全体を見た際に、余りにも設問の量が多いと、その時点で答える気をなくしてしまうという懸念がある。他市の状況を見ても、回答率は紙面のものと比べてかなり低いというデータもある。そこを踏まえて、回答率が上がるようにアンケートをシンプルにしている。

提案いただいた、アンケートのホームページ等への公開については、当課のInstagramでの公開も検討している。

○委員

ホームページにもあげるということは、自由に誰でも答えていいということか。

○事務局

こちらからはがきで送付する分については抽出だが、回答数が少ないことが予想されるため、回答数を確保するためにも対象年齢の方には、自由に回答いただけるように、公開できればと考えている。

➡（会議後、会長との検討を行った結果）

データの信頼度を高めるため、アンケートは抽出のみとし、公開はしないこととする。

【質疑・意見 7】

○委員

大きな範囲での質問が多いので、その結果をもとにどう分析されるのかが気になる。この結果がどう出たらどういうふうな施策をするという方向性や意思をもって設問を設定する方がいいかと思う。現状で、設問のカテゴリーごとに、目的とする施策があれば教えてほしい。

次に、国からのテンプレートのようなものがないので、全国と比べての比較検討ができない。その点から、このアンケートで正しく評価できるのかが疑問。

○児童福祉課長

居場所の設問については、児童福祉課で行っております「たんぽぽ教室」があり、子どもの居場所づくりということで、小学生から高校生年代が、学校へ行きづらい者や家庭の事情によって塾などにはいけない者を対象にした居場所づくりの事業を週に1回、総合福祉センターで開催している。しかし、高校生年代から上の年齢層になると、未知の部分であり、社会に出た方の居場所の有無については、このアンケートにて施策の検討に進んでいきたい。

また、「今、悩んでる心配事がありますか」の設問については、他課にあります重層的な支援における相談窓口を拡充していくかどうかの検討材料になると思っている。

さらに、結婚についてのイメージについての設問では、この「こども計画」について子どもを産む前から支援をしていくことがうたわれており、国は「継続的に身体的・精神的・社会的に、将来にわたって幸せな状態で生活ができる社会」を目指すための「こども計画」と示している。まず香芝市において、そういうことができているか、香芝市に住み続けてもらい、次の世代につなげることができているのかどうかということ測っていきたい。

また、この事業が今の状況に合っているのかを、「こども計画」においては数値目標の見直しだけではなく、事業の施策の見直しとして必要になるため、計画ができた後には、毎年の委員会が必要かとも考えている。

【質疑・意見 8】

○委員

資料3に「こども計画」はこども大綱を勘案して定めることとある。例えばこども大綱に①ライフステージを通した重要事項が7つあるが、ここを踏まえてアンケートを作ると、今後の事業に生かしやすいと思う。

【質疑・意見 9】

○委員

こういったウェブアンケートでは冒頭に、「このアンケートは何分程度で終わります」と一言入れると回答しやすくなる。

【質疑・意見 10】

○委員

「こどもの権利条約について」の設問について、こども大綱15ページに認知度を把握するようにとの記載がある。ファミサポもそうだと思うが、行政でよい事業があっても認知していないことにより、

活用できず、小さな問題を解決できず大きくなってしまったり、引きこもりになったりすることもあると思う。その点から、認知度の問題も考えなければならないと考える。このアンケートを実施したことによって、市民へ、市の施策を改めて知っていただけたといい。

また、こどもの権利条約はすごく大切なことだと思う。このアンケートを 39 歳までの回答者が見たときに、「子どもってこういう権利を持って生まれてきているんだ。」ということを新たに知っていただく機会になると思う。

【質疑・意見 1 1】

○委員

対象が 16～39 歳というふうには括られてると思うが、自分を振り返ると 18 と 38 の自分では全く違うので、アンケートの取り方がすごく難しいと思う。そこで、ある程度の年代層で質問・回答を分けてもいいかと思う。

【質疑・意見 1 2】

○委員

病児保育事業の実施状況について、せいか幼稚園の体調不良型、令和 4 年度と令和 5 年度の数字に誤りがあるため、訂正をお願いしたい。

続いて児童育成支援拠点事業について、令和 11 年度から確保することとされているが、そうすると今から 4 年間はしない、という意味表示だととらえてしまう。なぜこの 4 年間は何もしないと判断されたのか聞かせてほしい。

○児童福祉課長

児童育成支援拠点事業に関しまして、国の概要等を読んでいく中で、積極的に進めていきたい気持ちは担当課としてはありますが、環境的な条件の問題で、食事を毎日提供できる場所、事業者を見つけるのが難航するのではないかと考えている。条件が合えば、もう少し前倒しでやっていきたいという気持ちはある。

○会長

なかなかこの計画は難しいところがあるので、一応目安としてこれっていう形で決めておき、前倒しできるものがあれば、前倒しでの実施をしてもらいたい。

【質疑・意見 1 3】

○委員

利用実績の表を見たときに” 0 ”をみると、やっているのに利用者がいないという印象を受ける。準備期間ということで未実施であった場合は” 0 ”ではなく、違う形で示してはどうか。

別の部分では、地域子育て支援拠点事業において「きつきひろば」における令和元年度から 4 年度の” 0 ”というのが未実施という意味であり、令和 5 年から実施している場合は、未実施分については斜線にした方が適しているように思う。

○委員

児童育成支援拠点事業の 4 年間の” 0 ”という表記について、何もしていないというように捉えられないように「令和 10 年までは、〇〇教室で対応」など記載するのはいかがか。

実際には、毎日の食事の提供等、非常にハードル高い部分があるというのは理解しているが、それ以外のことについては、関連している事業があると思う。「一部の事業については、〇〇事業で対応しています。」と書くのもいいと思う。

【質疑・意見 1 4】

○委員

こども誰でも通園制度について、【うちの公園】にいと保護者の方から、「この制度について国

が言っているが、まだ始まらないのか。」という声をたくさん聞く。

これは、保育所等を利用していない満3歳未満の乳幼児に対しての制度だが、まだ香芝市には幼稚園が2年制のところがあり、4歳になるまで幼稚園に入れないという状況の方もいる。そのため「3歳になった卒の子どもたちが行くところがない。」という声もよく聞く。

そして、つどいのひろば（拠点）も、0歳から3歳未満の子どもが利用できるものであるため、3歳を超えて、公立の2年制幼稚園に行くまでの1年間、「どこにも行く場所がない」「遊びに行く場所がない」という声があがっている。

このような方々をどういうふうに救うのか、その子どもたちが行ける場所をどこに作ってもらえるのかについて検討をお願いします。

【質疑・意見15】

○委員

計画内の「障害」という言葉が全部漢字に変わっているので、その部分をひらがなに訂正してほしい。

○福祉部長

本市においては、前回の計画までは、「障がい福祉計画」等も含めてすべてひらがなの“がい”を使っていた。しかし、新しく三橋市政に変わり、障害の“害”については法律に即した漢字を使用することを打ち出されたため、この度からの計画については、漢字を使用することとなった。

ただし、今まで市内でいろいろな障害に関係するイベントなどを実施しており、長年ひらがなで定着しているものについては、引き続きひらがなを使用することもある。

香芝市が公的文書として出すものについては、今後、漢字を統一して使用するということで、ご理解いただきたい。

【その他】

なし

○事務局

今後のスケジュールの確認